



2011～2012 年度  
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

# Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう  
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度  
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 9 月第 2 例会 (2011.9.13) No.2912

## (1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

## (2) 佐藤 紳一会長挨拶

### 9/13 例会 「地区との協力」

9月13日、素晴らしいお月さま朝刊でみました。  
9月10日「交通遺児ブドウ・梨狩りツアー」に多数のメンバー参加ありがとうございました。バスに乗り切れないほどで遺児・父兄共々喜んでくれ楽しかったです。社会奉仕委員会の皆さん、ご苦労様でした。

秋の味覚といえば桃、梨、ブドウ、さつまいも、イチヂク、栗、それと新米などとたくさんありますが、福島の農家は秋の味覚などとはいつてられない非常に深刻な状況にあるそうです。それでも、ラーメンは喜多方、手打ち蕎麦は山都。桃は終わりますが、ブドウ、梨は福島中通り、柿は12月まで食べられます。新米を、福島県産農水産物を食べましょう。そして福島を笑顔と活気の生きる町にしましょう。

サンマは今年、安くて美味しいようですが、逆に高いのはどじょうです。韓国の食べ物で夏の疲れをとるために秋口に「鰻魚湯」(チュ・オータン)というどじょう汁を食べます。生きたどじょうをニンニクと一緒にミキサーにかけドロドロの状態にして鍋に入れ、煮えたら醤油とニンニクを入れ食べるスープです。このにおいが強烈で私には食べられませんでしたが。でも韓国の人には大好きなようです。重陽は旧暦で9月7日、秋夕(チュソク)は旧暦8月15日、日本では旧暦8月15日中秋の名月で、1日過ぎればただの十六夜(いざよい)です。同じ漢字圏で秋の美しさのとらえ方は様々あるようです。

地区指導者の主な責務はクラブが効果的となるように支援すること。地区指導者チームはガバナー、ガバナー補佐(AG)、地区委員会、研修リーダー、地区幹事直前ガバナーで構成され、地区は地区クラブを支援します。

- 会員増強や奉仕プロジェクトなどについて指針を提供。
- 同じような問題やプロジェクトを抱えているクラブ同士を結びつける。
- ロータリアンを地区委員に起用することで指導力、奉仕を行う機会を提供する。

- クラブ委員会及び会員に詳細なロータリー情報を伝える。
- RIとロータリー財団のプログラム調整を行う。

以上地区との協力でした。

## (3) 委員会報告

### ・小飯田 澄雄職業奉仕委員長

10月11日 JR高木支社長の御協力で新津の車両製作所を訪問させていただきます。参加者はメークアップ扱いとなります。是非、ご参加下さい。

## (4) 幹事報告(高橋 秀松幹事)

・地区役員の方で地区主催の事業に出席された方はメークアップ扱いとなりますので、チェック版の空欄に日付と事業名を記載願います。

## (5) 会員スピーチ

「東日本大震災」「新潟・福島豪雨」に伴う設備被害状況と今後の見通し

東北電力(株)新潟支店 支店長 大山隆一 君

## 9月20日の例会予定

会員スピーチ「最近の医療保障と医療環境について」

明治安田生命新潟支社長 松田 昭寿君

ホームページを更新致しました!

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

## コラム

白勢商事（株）

代表取締役社長 白勢仁士

「飛んでイスタンブール」

7月の終わりに、早めの夏休みを取りトルコを旅行した。妻が格安のツアーを見付けて予約したのは良いが、空路の所要時間が13時間以上も掛ることが分かり、急遽、航空券をアップグレードした結果、とても格安とは言えぬ羽目になってしまった・・・。

ところでトルコとは、西アジアのアナトリア半島と東ヨーロッパのバルカン半島の一部を領有する、アジアとヨーロッパにまたがる国でその歴史や文化は複雑である。

紀元前6千年頃から人が住み始め、鉄を使っていたといわれるヒッタイト人がこの地に最初に王国を築いたと言われている。その後ギリシャ、ペルシャにより支配されたこともあったが、4世紀に東ローマ（ビザンチン）帝国の領土となり、首都をコンスタンティノーブルと命名し約千年に渡り繁栄することになる。

9世紀になると中央アジアの遊牧民であったトルコ民族が進出し、ついに1453年オスマン・トルコのメフメット2世がコンスタンティノーブルを攻め落とし、ビザンチン帝国は滅亡。コンスタンティノーブルはイスタンブールと改められた。ビザンチン時代の教会や修道院はモスクに変えられ、キリスト教正教会の総本山であったアヤ・ソフィアも数々のモザイク画は漆喰で塗り潰され、スルタン（皇帝）のモスクとなった。今、アヤ・ソフィアは大改修によって昔の姿を取り戻しつつある。

また、スルタンの居城であったトプカプ宮殿へ行くとハレムの跡が残っているが、約3百人の絶世の美女が常に住んでいたそうだ。誠に羨ましい限りである。しかし、この時代のキリスト教徒はイスラム教からの迫害を受け、カッパドキアの地下に身を隠し、現在もその跡を見ることができる。

そのオスマン・トルコ帝国も徐々に衰退し、第一次世界大戦後現在のトルコ共和国となっている。誠に歴史的にも文化的にも興味深い旅行であった。

ところで、庄野真代のヒット曲「飛んでイスタンブール」の歌詞を読み返してみたが、歌詞の内容とイスタンブールとの必然性が私にはどうしても分からない。

どうしてこんな歌詞になったんだろう「飛んでイスタンブール」